




# Short-SP療法

## ～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目～7日目	8日目	9日目～35日目
●アロキシ ●デカドロン ●プロイメンド	お休み	 30分	お休み
シスプラチン	お休み	 60分	お休み
エスワン	1～21日目		22～35日目
	 朝食後 夕食後	錠 錠	お休み

## 治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

## 起こりやすい副作用

### ■白血球・好中球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があります。

治療開始後1～3週間頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行い、白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

### ■貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつき、倦怠感、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

### ■血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

### ■悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療薬や症状に合わせて吐き気止めを使います。

食事や水分がとれない、または、1日4回以上吐いた場合は連絡してください。

⇒食欲がなくても、脱水を防ぐため水分はしっかりとるようにして下さい。また、無理せず食べたいものを食べられる量だけ取るようにしましょう。

### ■腎機能障害（シスプラチン用）

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。

腎臓の働きが悪くなると、尿量の低下、動悸、息切れ、むくみ等の症状が出ることがあります。

また、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。予防のために大量に点滴を行なうことがあります。

また、抗がん剤の点滴中は500mLのペットボトル3本ぐらいを目安に水分をとりましょう。

### ■末梢神経障害

治療回数が増えると徐々に手足にしびれや痛み、感覚異常が出てくる場合があります。

治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかることがあります。

⇒字が書きにくい、物をつかみにくいなど日常生活に支障が出た時は、早めに主治医に相談して下さい。

### ■聴覚障害

シスプラチンを繰り返し点滴することにより、高い音が聞き取りづらくなったり、耳鳴りすることがあります。

⇒治療前に比べ、人の話し声が聞き取りにくく感じる時は、主治医に申し出て下さい。

### ■下痢

1日4回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、病院への連絡が必要です。

必要に応じて下痢止めが処方されることがあります。

⇒下痢または軟便の時は脱水を防ぐために、消化に良い物を取り、水分もしっかりとりましょう。

### ■口内炎

治療開始2週間ほどで口の中が痛い、ひりひりする、赤くなるといった症状が出ることがあります。

うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがありますが、痛みで食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

### ■皮疹

皮膚が赤くなったり、かゆみをともなうことがあります。

症状が強く出た場合は、ぬり薬や飲み薬を使うことがあります。

### ■色素沈着

抗がん剤の影響で顔や手や足、爪が黒くなる場合があります。

### ■流涙

涙目、充血等起こることがあります。

### ■吃逆（しゃっくり）

### ■倦怠感

治療開始2、4日後にだるい、体が重い、疲れやすいといった症状があらわれることがあります。

⇒適度に休息を取ったり、無理せず安静にしましょう。

## ！連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）